No.12　活　動　レ　ポ　ー　ト　2014年4月27日 発行

オアシスライフ・ケア

私たちは、2011年3月11日の東日本大震災を機に
オアシスチャペル利府キリスト教会によって設立された非営利のボランティアグループです。

目次

巻頭言
専任スタッフ國分（SHIZU革プロジェクト担当）からの挨拶です。
ページ 1

活動報告
被災地の今…。私たちの支援活動を紹介します。
ページ 2-3

団体情報
スタッフや協力団体の紹介、また支援のお願いについて記しました。
ページ 4

巻頭言

共に創る

先の事どもを思い出すな。昔の事どもを考えるな。見よ。わたしは新しい事をする。

旧約聖書・イザヤ書より

この春、SHIZU革“最年少ボランティア”の女の子が小学校に入学しました。女の子は、ボランティアスタッフである母親と共に志津川（南三陸町）を度々訪れ、ラッピング作業などを手伝ってくれていました。三月末、女の子は少しはにかみながらSHIZU革製作者の方々にランドセル姿を披露。製作者の方々は、まるで“わが孫”の門出であるかのように喜んでいました。私にとってはこの三年間を象徴する様なひと時でした。

とてつもなく大きな力が、一瞬で多くを破壊したことから始まったこの三年。一方で、小さな力が、時間をかけて少しを創造し続けてきた三年だとも振り返ることができるからです。志津川のお母さん方と利府町の女の子、地域も世代も全く異なる者同士が喜びを共有する関係は、三年かけて培われた素敵な創造です。また、石巻市寄磯浜では、震災後初となるホヤの収穫に目途がついたとのこと。漁師や海友支援隊の方々のご苦労が積み重ねられた結果の創造に他ありません。東松島市の大きな仮設団地においては、コミュニティを創造しようと努めておられる自治会長さんのお手伝いを不定期ながら継続中です。SHIZU革の製作者のお一人は、三年の節目にあたりこう一言寄せて下さいました。「（三年前の）初めての講習会の時は、無理かも…と思い断ろうと思いましたが、続けて良かったな…と凄く思います」。彼女の内に生きがいや喜びが確かに創造されたのです。これらはほんの一例です。

皆様からのご支援の故の創造でもあることを覚え、改めて感謝申し上げます。実際的なマンパワー、ソーシャルメディアなどでの広報協力、支援金、励ましのメッセージ、お祈り、SHIZU革の購入、被災地スタディツアーへの参加などが創造に至っているのです。オアシスライフ・ケアの使命は、関わる人々の心と人生に「私は一人じゃない」という実感を創造することです。今年度も皆さまと共に創造していきたいと願っております。

専任スタッフ　國分圭介

SHIZU革

昨年度は“うれしい想定外”が多々ありました。「STORY」（女性ファッション誌）に掲載されたり、オーストラリア・ニュージーランド銀行や生協からご協力いただいたり、ロックミュージシャンである氷室京介氏とのコラボが実現したり、「NEWS　ZERO」で紹介されたり…。「あまちゃん」のミサンガと混同される方が少なくなかったことも想定外でした（笑）。“悲しい想定外”がきっかけとなり生まれたSHIZU革ですが、“うれしい想定外”や多くの方々の応援に支えられ、確実に前進しています。同時に、その分の責任も痛感しています。製作者・スタッフ一同、商品自体のクオリティと込められた意味に一層こだわり、手にしていただく方々に喜びや震災を覚えるきっかけを提供し続けたいと願っています。

（SHIZU革公式サイト）https://www.shizugawa.jp/

寄磯浜 支援

去年の11月から今年の3月まで、石巻市寄磯浜(よりいそはま)の住民の方々に灯油の提供を行うことが出来ました。2011年の冬から続けてきたこの支援もこの3月で最後です。震災後の膨大な必要から考えると決して充分な助けではなかったはずですが、住民の方々は「三年間、本当にありがとうございました」と丁重に感謝を表してくださいました。現在、漁港には大型重機が入り復旧工事が進んでいます。災害公営住宅はまだ着工していませんが、浜の方々は漁港の復旧が徐々に進んでいることを喜び、夏に水揚げされる予定の養殖ホヤ(震災後、初！)に期待しています。まだまだ課題が山積している現状もあるのですが、寄磯浜の方々と一緒に、感謝なことや希望に目を留めながら、これからも歩んでいきます。

寄磯地区にコミュニティセンター「海友館ドイツハウス」が完成！

大津波の被害を受け、寄磯地区には住民の方々が集まれる集会所がなくなってしまいました。OLCの協力団体である海友支援隊が地区のニーズを訴え続けた結果、ドイツ赤十字社から被災地救援金の寄付を受けました。そこからさらに様々な方々の協力を仰ぎ、設計や建築のための打ち合わせを何度も行い、苦労の末「海友館ドイツハウス」が3月末に完成しました。海友館という名前は、「海外の友」と「海を愛する友」からの支援によって完成したところから命名されたそうです。

場所は、震災後避難所として使われた寄磯小学校の隣の高台、海を見渡すことが出来る位置にあります。屋内には緊急備蓄用の倉庫やキッチン、会議室なども備えられています。

私たちは、春休み中の子どもたち・学生たちのボランティアを率いて、最後の備品整理や設置のお手伝いをさせていただきました。このコミュニティセンターが寄磯地区の交流のために豊かに用いられますように。人々の笑顔あふれる場所となりますように。

東松島市・矢本地区

東松島市の矢本運動公園仮設住宅の方々のために、三重県四日市の看護学生たちと協力してリフレッシュ企画を提供しました。看護学生の皆さんが用意してくださった温か～い足湯に浸かって体をほぐし、ゆっくりお茶飲みしながらゴスペルを聴いたり、歌ったりして心をほぐす、癒しとリフレッシュのフルコースでした。矢本仮設住宅ではすっかりおなじみになったゲストシンガー福原タカヨシさん(http://ses.kir.jp/tfsoul)と一緒に、スタッフのKEN MATSUDAとオアシスチャペルのゴスペルクワイアも歌わせていただき、仮設住宅の皆さんと顔なじみになってきたおかげで、集会所は笑いの飛び交う何ともいえないアットホームな雰囲気に包まれました。帰るときには「最高の一日だった～！！」「また来なさいよ！！」と声をかけていただき、癒しを届けに行ったはずがこちらも元気をたくさんいただき、私たちにとっても最高の一日となりました。これからも矢本の皆さんと最高の想い出を積み重ねていきたいです。

小野竹一さんへのインタビュー

(東松島市矢本運動公園仮設住宅 自治会長)

Q1. 他の仮設住宅と比べても、かなり頻繁にイベントを行なっておられますが、どうしてでしょうか？

笑顔を失っている皆の姿を見て、ただただ皆を笑顔にしたい！！ そう思いたったのがきっかけで、3年も続けちゃいました。

Q2. どのようなイベントをしてこられましたか？

ギネスに挑戦する企画をしました。歌のリレーをしたり、皆で腕を組んで一斉に立ち上がるゲームをしたり、名産の海苔を使ってものすごい長い海苔巻きを作ったり。失敗しても「何だい、うまくいぐど思ったら失敗しちゃった～」「あらぁ、難しいごと～」と、近くにいる者同士が笑いながら声を掛け合っているうちに、笑いの和が広がっていきました。

また、青森からねぶたを呼んだり、クリスマスにはオアシスライフ・ケアの皆さんに手伝ってもらって、イルミネーション点灯式、ゴスペル礼拝も行いました。家から出られない人にも太鼓の音や歌声が聞こえたり、直接参加していなくても雰囲気を味わえたり、野次馬で出て来たりできるような企画ですね。

Q3. 集団移転先での町づくり協議会の会長もしておられるそうすが、特に心がけていることがありましたら教えてください。

移転するにあたって、課題は山積みなので、既に110回以上の話し合いを繰り返してきました。自分たちにとって住み良い町にするためという以上に、未来の子どもたちが『ここに移って来て良かった～！！』と思えるように、今の大人たちがこうして苦労することが必要だと考えています。

移転時期は、はじめに移れる世帯が来年の秋に47世帯、その後はさらに1年から2年先、遅い人では5年、6年先になることが予想されています。将来同じ町に一緒に住む予定の住民たちが、こんなにも長い間別々に住まなければならない状況です。そんな中で、私たちは後とか先とか関係なく同じコミュニティの仲間として交流を持ち続け、仲間意識が途絶えないようにしたいと考えています。今後もこのコミュニティのためにオアシスライフ・ケアさんに協力いただきたいと考えています。

アメリカからの「覚え続ける」祈り

3月8日(土)、カリフォルニア州ロサンゼルス近郊にあるガーデナ平原バプテスト教会(GVBC)で行われた「PRAY FOR JAPAN～東北のための祈りのコンサート～」にスタッフKENをお招きいただき、歌と自身の震災体験を語り、支援活動の報告もさせていただきました。震災から三年という月日が経っており、遠く離れた海外であるにも関わらず、集会では多くの方々が私達と共に涙を流し、こちらの予想以上に真剣に祈ってくださる姿に驚きました。二週間の滞在期間中、GVBCの方々と一緒に過ごすうちに、この「覚え続ける」祈りは集会の時だけのものではなく、三年間続けられてきたものだということが分かり、さらに大きな衝撃を受けました。「覚え続ける」という関わりがどれほどありがたいことか身をもって体験し、自分自身も同じように「覚え続ける」者でいたいと思わされました。

ご協力のお願い

皆様からのご支援・ご協力に心から感謝申し上げます。私たちは今後も、復興のために、長く、効果的な働きを続けていきたいと願っています。引き続きご協力をよろしくお願い致します。

支援金窓口

《ゆうちょ銀行》

・他金融機関より
店名：八一八（読み ハチイチハチ）
口座番号：普通 4130375
口座名：オアシスライフ・ケア

・ゆうちょ銀行より
記号：18110　番号：41303751
口座名：オアシスライフ・ケア

※ 定期的に発行しているニュースレターをご所望の方は、お手数ですが当方までご連絡ください。

※ 過去の活動レポートは当方のウェブサイト上で閲覧いただけます。
（http://oasislifecare.org）

関連情報

スタッフ

松田牧人（代表・オアシスチャペル利府キリスト教会 牧師）
郡山英明（専任・会計 担当）
國分圭介（専任・SHIZU革、南三陸町 担当）
菊地祥彦（石巻市 担当）
松田　献　（ゴスペル、東松島市 担当）
三浦良太（森郷キャンプ場 担当）

連絡先

事 務 所 ：宮城県宮城郡利府町中央2-5-1（利府キリスト教会内）
TEL＆FAX：022-356-2494（利府キリスト教会と兼用）
※SHIZU革に関するお問い合わせは 022-356-9443 へ
E-mail：info@oasislifecare.org

Webサイト

Webページ：http://oasislifecare.org　（日本語　Japanese）
http://en.oasislifecare.org（英　語　English）
Facebookページ： http://www.facebook.com/OasisLifeCARE

賛同者

尾山清仁・キャシー （聖書キリスト教会東京教会・牧師）
加賀洋子 （ASKアカデミー・ジャパン株式会社 CEO）
葛西浩二 （有限会社テレビジョンワークス・代表取締役）
Kaz Kato （ミュージシャン）
合田隆史（尚絅学院大学 学長）
郡山榮次郎 （心療内科医）
後藤献児朗 （有限会社サーブ介護センター 代表取締役）
篠田真宏 （ゴールデンルールリミテッド・代表）
ジェイソン・エワート （作家・Australian of the Year nominee 2007）
中村佐知 （翻訳者／心理学者〈Ph.D.〉／JCFN理事）
日野 哲 （東北学院大学・総務部長）
広崎仁一 （ヒューサーブ代表）
藤掛 明 （聖学院大学総合研究所・准教授／臨床心理士）
藤原淳賀 （聖学院大学総合研究所・教授／恵約宣教教会・牧師）
松田和憲 （関東学院大学工学部・教授／関東学院教会・牧師）
渡邊忠雄 （元 東北大学大学院工学研究科・教授／中国 <瀋陽> 東北大学・客員教授）

協力団体

一般社団法人 海友支援隊 www.kinka-hoya.com
一般社団法人 CRASH Japan www.crashjapan.com
一般社団法人 サマリタンズパース www.samaritanspurse.jp
NPO法人 音楽で日本の笑顔を smile-chorus-npo.org
宗教法人 日本バプテスト同盟 www.jbu.or.jp
聖書キリスト教会東京教会 seishokirisuto.com
Bridges For Peace JAPAN www.bfpj.org
ホープみやぎ www.hopemiyagi.org

※50音順／敬称略／2014年4月27日現在